

(2) 主に男児の遊び

1) 凧・凧揚げ

ア 採録した呼び方

- a) 凧 (遊具) イカ、タコ
- b) 凧揚げ イカアゲ、タコアゲ

イ 遊びの話

全集落

ウ 遊びと呼び方の状況

細長く切った竹ひごによる骨組みに和紙等を貼りつけ、風を受けやすいよう適度な反りを持つ長方形や六角形等の構造となった遊具であり、主に北西風を利用して、糸で引きながら空高く上げる冬の屋外での遊びである。

本遊びの呼び方としては、「イカアゲ」と「タコアゲ」の計2種のほか、遊具として「イカ」と「タコ」の計2種を採録した。

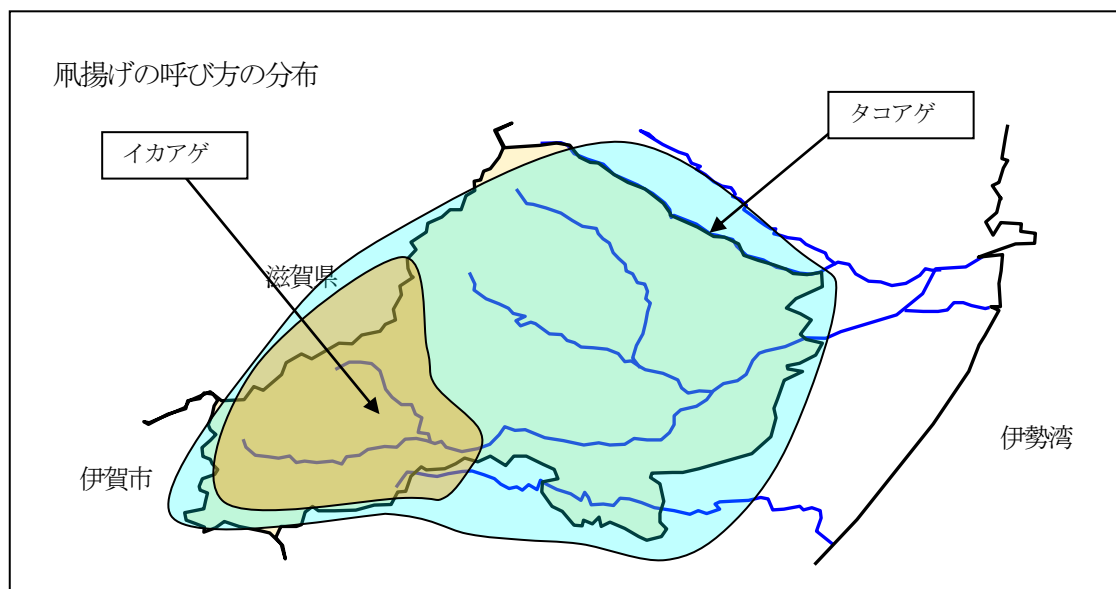
郡内のほぼ全域で「タコアゲ」と呼ばれたほか、加太・坂下地区から隣接する甲賀市土山町山内地区、芸濃町明地区にかけては主として「イカアゲ」と呼ばれ、そうした呼び方は関町地区でもみられた。

また、遊具の呼び方である「タコ」と「イカ」は、遊びとしてはそれぞれ「タコアゲ」と「イカアゲ」という呼び方で同じ地域に分布した。

エ その他

調査の中で、個別の凧の種類として次の6種を採録した。

- ・ オーギイカ、ヤッコイカ
- ・ イカダコ、オーギダコ、ショージダコ、ヤッコダコ



2) 独楽 (回し)・ぶちごま

① 独楽・独楽回し

ア 採録した呼び方

- a) 独楽 (総称 (遊具・遊び)) コマ、ゴマ
- b) 独楽回し コママワシ、ゴママワシ

イ 遊びの話 全集落

ウ 遊びと呼び方の状況

回転しやすいよう中心軸と円形の胴からなる遊具であり、主として紐で回転させる屋外での遊びである。

本遊びの呼び方としては、「コママワシ」と「ゴママワシ」の計2種を採録し、遊具として「コマ」と「ゴマ」の計2種を採録した。

「コマ」と「ゴマ」は遊具である一方、独楽を使った遊びを意味する総称としても一般的に使われたことから、遊びの呼び方としてはそれらを含めて計4種ともなる。

エ その他

周回ルートを定め、独楽が手のひら上で回転中のみ走りリレー競争する遊びがみられた。

※他種の独楽：カミナリゴマ、ゼニゴマ、テツゴマ、ドングリゴマ、ベーゴマ



② ぶちごま

ア 採録した呼び方

- ・ 叩くこと シバキ、シバキゴマ、タタキ、タタキゴマ、ビシャキ、ビシャキゴマ
- ・ その他 カンシャクゴマ、チチゴマ、デンゴマ、ドーゴマ、バイ、バイゴマ、マキゴマ、ヤリゴマ ※バイ (ゴマ) を回すことは、バイマワシ

イ 遊びの話 ほとんどの集落

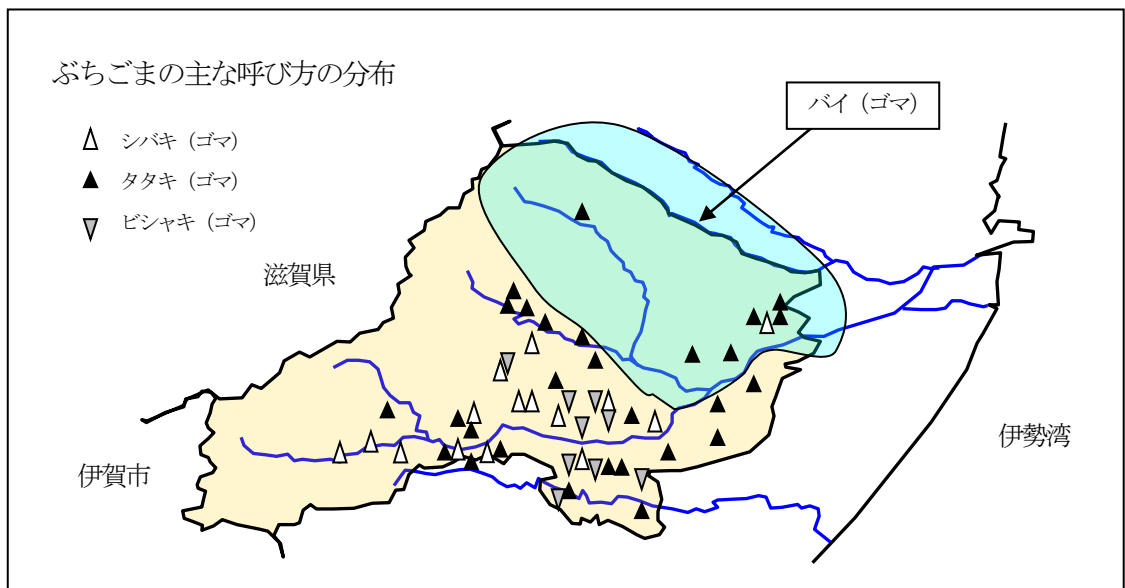
ウ 遊びと呼び方の状況

農山村の男児の多くは、自分たちで木を削り短い杭状の独楽を作り、その胴体の側面を鞭状のもので叩き回転させ遊んだ。そうした遊具であり、それを使った屋外での遊びである。

本遊びの呼び方としては、「バイ (ゴマ)」や「タタキ (ゴマ)」をはじめ計14種を採録した。

郡北部では「バイ (ゴマ)」、中南部では「タタキ (ゴマ)」や「シバキ (ゴマ)」と呼ばれ、その他「デンゴマ」、「カンシャクゴマ」等集落によって様々な呼び方がみられた。

なお、「バイマワシ」を除き、採録した呼び方は遊具であり遊びを意味する総称でもあった。



3) めんこ

① めんこ

ア 採録した呼び方

- ・ 行為 アプリ、ウチ、ウチコ、ウッチ、ウッチン、ブツケ、ブツケン、ブツツケ
- ・ 形状 カード、カルタ、マルコ
- ・ 表紙の絵 カブト
- ・ 打ち付けた音 パッカ、バッチ、パンパン、ブチ、ブッチン、ベッタン、ペッタン
- ・ 一般的な共通名 メンコ、メンコウチ
- ・ その他 ショーヤ、シヨンヤ、メクリ



イ 遊びの話

全集落

ウ 遊びと呼び方の状況

片面に図柄が描かれた手のひら大のトランプ形や円形をした厚紙の遊具であり、地面に置いたものを交互で叩きつけ合いし、裏返したり、線から外へ出したり等する屋外での遊びである。

本遊びの呼び方としては、「ブツケ」や「ウチ」をはじめ計24種を採録した。

郡内は大きく7つの呼び方の地域に分かれ、白川地区から安楽川本支流地域・井田川・国府地区の広い地域で「ブツケ」と呼ばれたほか、亀山町地区では「カード」、関町地区から神辺地区にかけては「ウチ」、「ウッチン」、加太地区では「ベッタン」、坂下地区では「メンコ」、昼生地区では「シヨンヤ」、また庄野・牧田・石薬師地区では「ショーヤ」と呼ばれた。

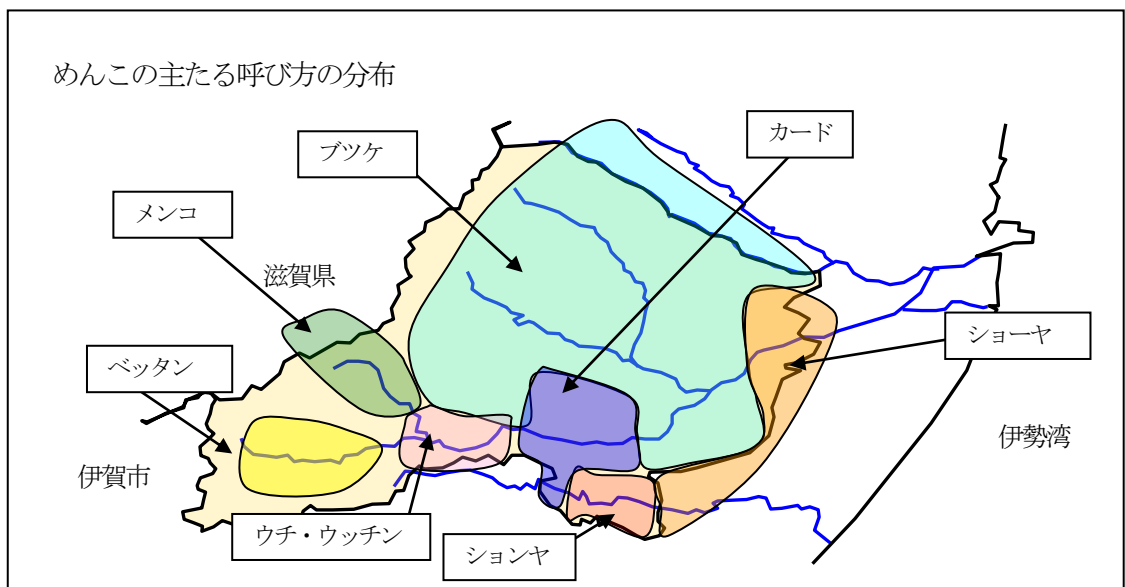
さらに集落によっては、円形のものと同長方形のものを呼び分けする場合もみられ、こうした採録した呼び方は、「メンコウチ」を除き、遊具であり遊びを意味する総称でもあった。

なお、隣接地域として調査を行った甲賀市土山町では「メンコ」、明地区では「ケン」等を採録した。

エ その他

遊び方（勝ち方）としては、最も一般的である裏返す「カエシ」のほか、線で示した外に出す「ダシ」、相手のものの下に潜り込ます「スケ」、「スカシ」、何枚かを重ねて置き、最も下のものを抜き出す「ヌキ」等も行われ、こうした呼び方自体も集落により違いがみられた。

また、油や蠟を塗りめんこ自体を重くし簡単に裏返らないようにする工夫や、指先で引っ掛けたり大きな袖の服で扇いだりするずるい勝ち方、また本気であるか否等についても地域固有の呼び方がみられ、めんこだけでも多様な言葉があるようであった。



② ろうめんこ

ア 採録した呼び方

- a) ろうめんこ (総称 (遊具・遊び)) キッチン、
ゴツン、パッチン、ピッチ、ビッチン、ピ
ッチン、ブッチ、ブッチン、プッチン、メン
コ、メンチ
- b) 飛ばすこと トバシ、ヒコーキ、ヒコーキトバシ、
ヒコーキブツケ、フキ



イ 遊びの話

ほぼ全集落

ウ 遊びと呼び方の状況

10 円玉程度の円形の厚紙でできた小さな遊具であり、その両端を親指と人差し指とで挟み、圧力をかけて遠くに飛ばしたりする屋外での遊びである。

本遊びの呼び方としては、遊具として「ピッチン」や「ゴツン」をはじめ計 11 種のほか、飛ばすという遊び方として「トバシ」や「ヒコーキトバシ」をはじめ計 5 種を採録した。

郡内では集落数としては限られるものの坂下地区から井田川地区にかけて、また野登地区等を中心に広域で「ピッチン」、昼生地区で「ゴツン」と呼ばれ、深伊沢地区から久間田ちくにかけては「キッチン」がみられた。

一方、遊び方から、川崎地区を中心として「トバシ」とも呼ばれた。

なお、主として飛ばして遊んだことから、遊具としての呼び方はそれを使った遊びを意味する総称でもあった。

エ その他

置き薬売りの行商人が紙風船と同様に、子ども達に配っていったという話がみられた。



4) ごむばちんこ

ア 採録した呼び方

- ・ 使用素材 グンカン、ゴムカン、ゴムチューカン、
ゴムテッポー、ゴムデッポー
- ・ 弾を飛ばすこと イシヤリ
- ・ その他 ハジキ、パチンコ

イ 遊びの話

全集落

ウ 遊びと呼び方の状況

Yの字又は三つ又状の木を利用し、その上部の両端にゴムを取り付けた遊具であり、石等を飛ばす屋外での遊びである。

本遊びの呼び方としては、「ゴムカン」や「ゴムデッポー」をはじめ計8種を採録した。

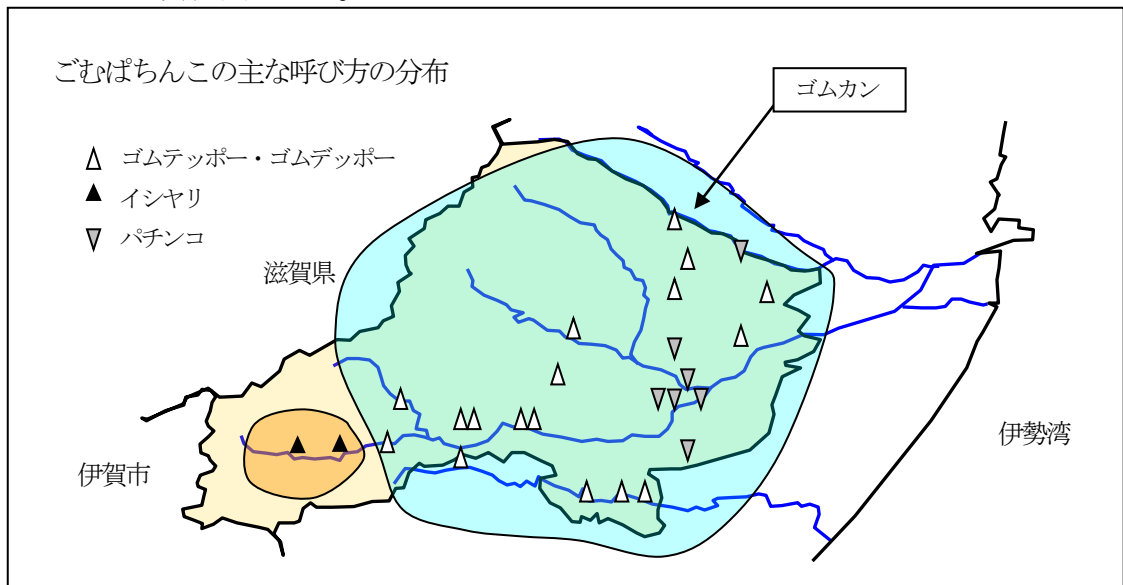
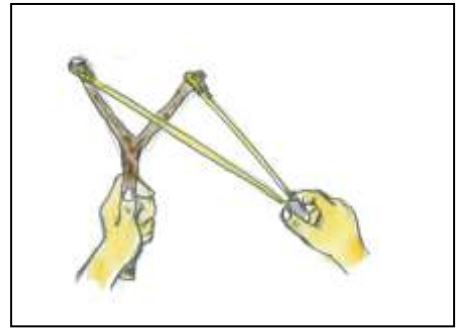
郡内は大きく2つの呼び方の地域に分かれ、ほとんどの地域で「ゴムカン」と呼ばれたほか、加太地区で「イシヤリ」がみられた。

また、採録集落数としては限られるが郡内の広い地域で「ゴムテッポー」とも呼ばれたほか、井田川地区を中心に「パチンコ」もみられ、さらに「ゴムカン」は集落によっては「グンカン」とも呼ばれる場合もあったようである。

なお、上記の採録した呼び方は、遊具であり遊びを意味する総称でもあった。

エ その他

足元にある小石を弾として使い、遠くに飛ばすことができる手軽な飛び道具であることから、男児が様々なものに狙いを定めよく使ったようであるが、狙ってもなかなか当たるものではなかったという話もみられた。

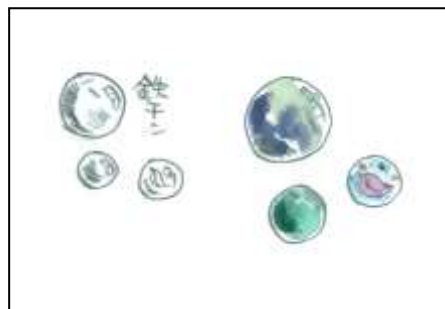


5) びーだま

① びーだま

ア 採録した呼び方

- ・ 接触音 カチンコ、カチンダマ、カッチン、カ
ッチンアソビ、カッチンコ、カッチンダマ、
パチンコ
- ・ 素材（ガラス製） ガラスダマ、ビンダマ
（※ 鉄製 テッチン）
- ・ 出所（飲料） ラムネダマ、ラムネノタマ
- ・ 一般的な共通名 ビーダマ
- ・ その他 ニリン、ニリンダマ、ミリン、ミリン
ダマ



イ 遊びの話

全集落

ウ 遊びと呼び方の状況

直径1cmから大きなものでは3cm程度のガラス製の玉の遊具であり、子ども達が転がしたり、投げたり、指ではじくように押し出し、当てたりする屋外での遊びである。

本遊びの呼び方としては、「カッチンダマ」や「ミリンダマ」をはじめ計16種を採録した。

郡内全域で共通名である「ビーダマ」という呼び方は認知されていたようであるが、実際には「ミリン（ダマ）」や「ニリン（ダマ）」と呼ばれたほか、びーだま同士を当てる遊びの呼び方でありその接触音からの「カッチン」、「カッチンダマ」等もよく使われ、また、ラムネの瓶の中に入っていたことから「ラムネダマ」や「ビンダマ」もみられた。

上記の採録した呼び方は、遊具であり遊びを意味する総称となっており、地域でいろんな遊び方があったものの、ほとんどの場合そうした総称で呼ばれていた。

なお、鉄製のものとして「テッチン」がみられた。

② びーだまで当てる遊び

ア 採録した呼び方

- a) 投げ当て カチンコ、カチンダマ、カッチン、カ
ッチンアソビ、カッチンコ、カッチンダマ、ハ
ジキ、パチンコ
※ インボ（鉄製）
- b) 落とし当て オトシ、パッチンコ、メカチ、メカ
チン、メカンチ、メッカチ、メッカチン



イ 遊びの話

全集落

ウ 遊びと呼び方の状況

びーだまを使つての遊びは、主として互いに当て合う形でのものが多く、離れたところにあるものに投げ当てする（転がして当てる場合も含む）場合と、地面に置かれたものに目をかざしながら真上から落とし当てて遊ぶ場合がみられた。

本遊びの呼び方としては、投げ当てとして総称でもある「カッチン」や「カッチンダマ」をはじめ計8種のほか、鉄製の玉を使う場合として「インボ」の1種、また落とし当てとして「オトシ」や「メッカチ」をはじめ計7種を採録した。

とりわけ投げ当てがよくされたようで、郡内全域で総称でもある「カッチン」や「カッチンダマ」がこの一般的な呼び方としてもよく使われたようであった。

6) 竹鉄砲（竹細工の遊戯銃）

主にオナゴダケ（＝篠竹）を加工して作る子ども達の遊戯銃であり、砲身の先端部分の中に残った弾と元から押し込む弾の間の空気圧を利用して、先端部分の弾を飛ばす屋外での遊びである。

弾としては、杉の実や紙のほか、南天やリュウノヒゲといった身近にあった庭木の実等が使われ、また水を押し出すものも同様に作られた。

こうした遊戯銃の呼び名には、「鉄砲（テッポー又はデッポー）」という言葉が語尾につけられていた。



① 杉の実を弾として使うもの（杉鉄砲）

ア 採録した呼び方

- ・ 杉鉄砲、杉玉鉄砲（：スギ（ダマ）テッポー等）

イ 遊びの話

全集落

ウ 遊びと呼び方の状況

杉の木に実る米粒のような小さな実を弾として使う竹鉄砲であり、それを使った春先の遊びである。

最も細い銃身の小型の竹鉄砲であり、うまく飛ばすと「ピシッ」と小気味よい音がする。

本遊びの呼び方としては、「杉鉄砲」と「杉玉鉄砲」の計2種を採録した。

郡内全域で「杉鉄砲」と呼ばれたほか、一部の集落で「杉玉鉄砲」がみられた。



② 紙を弾として使うもの（紙鉄砲）

ア 採録した呼び方

- ・ 紙鉄砲、紙玉鉄砲（：カミ（ダマ）テッポー等）

イ 遊びの話

全集落

ウ 遊びと呼び方の状況

新聞紙等の紙切れを（噛んで）水分を含ませ丸くし弾として使う竹鉄砲であり、それを使った遊びである。銃身とする竹筒に応じて弾の大きさの調整ができるため、比較的作りやすく大型のものとなると少し驚くような破裂音がでる。

本遊びの呼び方としては、「紙鉄砲」と「紙玉鉄砲」の計2種を採録した。

郡内全域で「紙鉄砲」と呼ばれたほか、一部の集落で「紙玉鉄砲」がみられた。

③ 南天の実を弾として使うもの

ア 採録した呼び方

—

イ 遊びの話

多くの集落

ウ 遊びと呼び方の状況

人家の裏庭などに植えられた南天の実を弾として使う竹鉄砲であり、それを使った秋の遊びである。

多くの集落で作られていたようであるが、本遊びの呼び方としては、採録事例はなかった。



④ リュウノヒゲの実を弾として使うもの

ア 採録した呼び方

- ・ 植物の地方名から くす玉鉄砲、すく玉鉄砲、すす玉鉄砲、すず玉鉄砲、すす鉄砲、すず鉄砲、すずらん鉄砲、ふき玉鉄砲、ふく玉鉄砲

イ 遊びの話

ほぼ全集落

ウ 遊びと呼び方の状況

人家の庭先などに植えられたリュウノヒゲの青色の実を弾として使う竹鉄砲であり、それを使った秋の遊びである。

本遊びの呼び方としては、「すく玉鉄砲」や「すす鉄砲」をはじめ計9種を採録した。

郡内ではリュウノヒゲが「ススダンゴ」等と呼ばれたことから、それに由来する呼び方が多く使われていた。

杉鉄砲や紙鉄砲に次ぎよく作られたようであるが、呼び方がはっきりとしない集落も多くみられた。



⑤ 万両の実を弾として使うもの

ア 採録した呼び方

—

イ 遊びの話

一部の集落

ウ 遊びと呼び方の状況

人家の裏庭などに植えられた万両の実を弾として使う竹鉄砲であり、それを使った秋の遊びである。

本遊びの呼び方としては、採録事例はなかった。

当時は、万両が寺を除き一般の家には庭木としてあまり植えられていなかったようで、竹鉄砲としてその実を使っていたという集落は多くなかった。

なお、昭和40年代となるが、本竹鉄砲を「モモデッポー」と呼んだという集落がみられた。



⑥ 水を弾として使うもの（水鉄砲）

ア 採録した呼び方

- ・ 水鉄砲（：ミズテッポー等）

イ 遊びの話

全集落

ウ 遊びと呼び方の状況

他と異なり比較的太い竹を銃身とし水を弾として使う竹鉄砲であり、そこに入れた水を強く前方へ押し出すことにより、それを相手に浴びせるという夏の遊びである。

本遊びの呼び方としては、「水鉄砲」の1種を採録した。

郡内全域で「水鉄砲」と呼ばれ、他の呼び方はみられなかった。

⑦ その他の実などを弾として使うもの

ア 使った内容と呼び方

- ・ アオイの木の实 —
- ・ カナミ (木) の実 カナミノ鉄砲
- ・ タモの木の实 —
- ・ ホー (の木) の実 ホー鉄砲
- ・ ムクの木の実 —
- ・ その他 豆鉄砲
- ・ カシの木の実 (ドングリ) —
- ・ シューの木の実 —
- ・ ハチボク (: ジュズダマ) の実 —
- ・ マキの木の実の台 —
- ・ 山吹の木の実 —

イ 遊びの話 一部の集落

ウ 遊びと呼び方の状況

上記①から⑥のほか、竹鉄砲の弾として使う 11 種の木の実等がみられた。

国府地区ではホーの木の実を使用した「ホー鉄砲」、亀山市椿世町ではカナミの木の実を使用した「カナミノ鉄砲」を採録したほかは、呼び方がないか又は不明であり、採録集落数としてもカシの木の実 (ドングリ) を弾として使ったという 7 集落のほかは、1 から 2 集落でみられたのみであった。

なお、ドングリは水に入れて柔らかくするか、固い皮を取り中身を弾にしたという。

⑧ その他の竹鉄砲

ア 採録した呼び方

- ・ 筒鉄砲 (: ツツデッポー)、ハジキ鉄砲

イ 遊びの話 一部の集落

ウ 遊びと呼び方の状況

戦争ごっこや兵隊ごっこで使われた少し手の込んだ竹鉄砲である。

本遊び (道具) の呼び方としては、「筒鉄砲」と「ハジキ鉄砲」の計 2 種を採録した。

- ・ 筒鉄砲 : 50 cm~1m位の竹を使い、手元近くの切れ込みに割った竹の片方を差し込み、もう片方を先の方の一定の長さの切れ込み部分に曲げて入れ、それを手元に引き、そこにどんぐりの実などを入れて、竹の弾く力で先の竹口から飛び出す仕組みの遊戯銃であるという。
- ・ ハジキ鉄砲 : 2 種類あり、紐で機関銃のように音をたてるものと、銃身となる太く丸い竹と小石等を弾くための細い竹で作るもので、小石等を弾いて飛ばす遊戯銃であるという。

7) 竹馬

ア 採録した呼び方

- ・ 地方名 アシダカ
- ・ 一般的な共通名 タケウマ

イ 遊びの話

全集落

ウ 遊びと呼び方の状況

握りやすい太さの2本の竹に足場を取り付けた遊具であり、その部分に足を乗せ手足を同時に動かして歩行する屋外での遊びである。

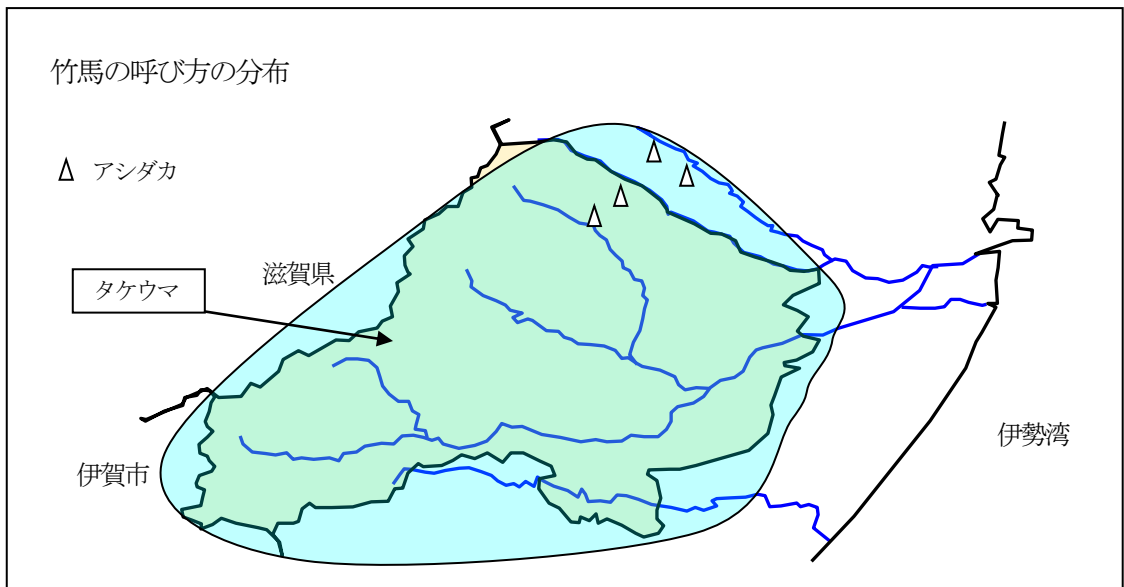
本遊びの呼び方としては、「アシダカ」と「タケウマ」の計2種を採録した。

郡内全域で共通名である「タケウマ」と呼ばれたほか、郡北部の鈴鹿市椿地区で「アシダカ」がみられた。

なお、隣接地域として調査を行った四日市市水沢町等で「アシダカ」を採録したことから、その呼び方は郡北部地域より以北での呼び方であるようである。

エ その他

当時は、子ども達が遊びとして竹馬で川を渡っていったという話や足場を上げて屋根から乗ったという話がみられた。



8) 二つの集団での遊び

兵隊ごっこ、陣取り、水雷艦長などに代表されるように、村の上級生から下級生までの子ども達が二つの組に分かれて集団で競い合う遊びであり、人数が集まればよく行われたという。それら以外にも村々で一定のルールの下、様々な遊び方があったようである。

① 陣取り

ア 採録した呼び方

- ・ 陣地を取ること クニトリ、ジントリ、ジンドリ
- ・ 陣地を持つこと ジンモチ
- ・ 城を壊すこと シロコワシ
- ・ その他 トリコ

イ 遊びの話

全集落

ウ 遊びと呼び方の状況

二組に分かれ、一定の離れた場所に互いに木や地面の囲った場所を自陣として定め、入り乱れながら相手の陣地内にタッチされずに入ること等を競う屋外での遊びである。

本遊びの呼び方としては、「クニトリ」や「ジンドリ」をはじめ計6種を採録した。

郡内のほぼ全域で「ジンドリ」又は「ジントリ」と呼ばれ、一部の集落で「クニトリ」や「ジンモチ」、また田村町名越での「トリコ」のほか、鈴鹿市住吉では2組で相手方の城（親石の回りを小石で囲む）をこわし親石ととる遊びである「シロコワシ」がみられた。



② 水雷艦長

ア 採録した呼び方

- ・ 軍艦から キチク、クチク、クチクスイライ、クチクテイスライテイセンスイテイ、クチスイ、クッスイ、グンカンアソビ、スイヨコホンカン、スイヨコホンガン、スイライアソビ、スイラコッペ
- ・ その他 サンカクユーギ、ジライタイショー、ジントリ



イ 遊びの話

多くの集落

ウ 遊びと呼び方の状況

二組に分かれ、軍艦の特徴を利用し参加する子ども達にそれぞれじゃんけんのような三すくみのいずれかの役割を持たせ、つば付き帽子のつばの位置を各役割の目印として、入り乱れる中で出会ったときに、それにより勝ち負けを決めていくという海戦を模した屋外での遊びである。

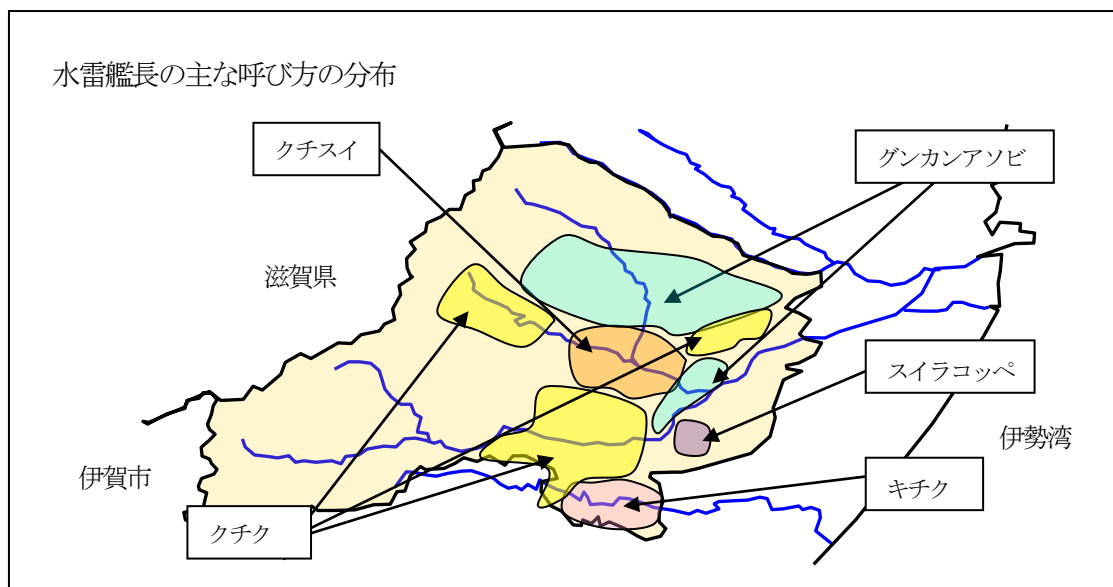
本遊びの呼び方としては、「グンカンアソビ」や「クチク」をはじめ計14種を採録した。

郡内では地域別に多様な呼び方がみられ、亀山地区や野登地区で「クチク」と呼ばれたほか、井田川地域や庄内・深伊沢地域では「グンカンアソビ」、川崎地区では「クチスイ」等と呼ばれ、その他「スイライ」や軍艦によらない「ジライタイショウ」等がみられた。

エ その他

主に軍艦を使った遊びで、上位艦(役)を上級生が取り、中位艦(役)を中級生、下位艦(役)を下級生が担い、上級生が司令官となり号令をかけて行ったという。この場合、三すくみといいつつも、動き回るための体力差が反映されるほか、上位艦は中位艦とともに動くことによりルール上、下位艦に対応できたという。

役割の目印としては、つばのついた帽子を使い、上位のものはつばを前に、中位のものは横に、下位のものは後ろしてかぶり、それぞれの機能(役)をわかるようにしたという。



9) 釘を使った遊び

ア 採録した呼び方

- a) 釘刺し (総称) クギウチ、クギサシ
- b) 相手の釘を倒す
 トリ クギコカシ、クギタオシ、クギ
- c) 陣地の取り合い クニトリ、ジショトリ、ジント
 リ、ジンドリ

イ 遊びの話
 全集落

ウ 遊びと呼び方の状況

五寸釘など長い釘を適度な硬さの地面に刺しあうことを競い合うという屋外での遊びである。

うまく刺さると再度続けることができ、相手を囲い込んでいくもの、相手の釘を倒すもの、陣地の取り合いをするものという主として3種の遊び方がみられた。

本遊びの呼び方としては、「クギウチ」と「クギサシ」の計2種を採録した。

郡内全域で「クギサシ」と呼ばれたほか、一部の集落で「クギウチ」がみられ、これらは釘を使っの遊び全てを表す総称としても使われた。

釘を使っの最も一般的な遊び方は、2人又は数名で行い、自身が刺した穴どうしを直線で結びながら相手を巻き込み出口を小さくして出られなくしていくという遊び方であり、総称である「クギサシ」等が使われた。

また、地面に刺さった相手の釘を倒したうで自身の釘は地面に刺されれば勝ちという遊び方としては、総称のほか、「クギトリ」や「クギコカシ」をはじめ計3種類を採録した。

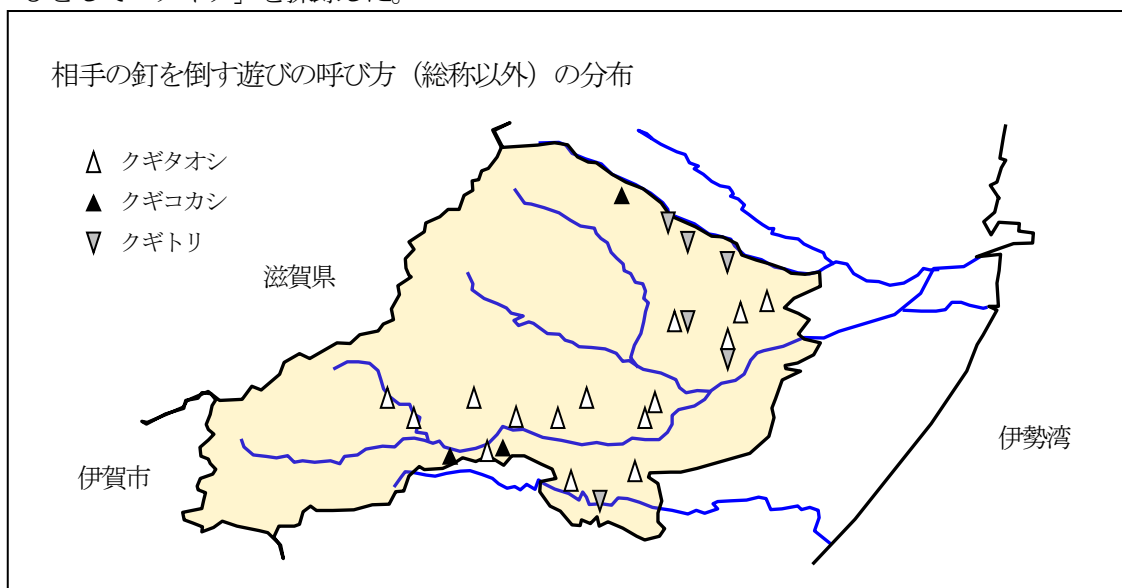
鈴鹿川沿いや石薬師地区で「クギタオシ」、久間田地区を中心に「クギトリ」がみられた。

また、釘を刺しながら自身の陣地を増やしていくという遊び方の呼び方としては、「クニトリ」や「ジンドリ」をはじめ計4種を採録した。

なお、「クニトリ」と「ジンドリ」については、地面での陣取りでも同じ呼び方があり、曖昧な部分が残る。

エ その他

道具としては、物が不足した当時は「タルキクギ」を使用したという話のほか、隣接地域として調査を行った四日市市水沢町では、先端をとがらした長さ30cm程度の木を田んぼに刺す遊びとして「クイタ」を採録した。



10) 空き缶を使った遊び

空き缶を使った遊びについては、主に缶下駄と缶蹴りの2種があったが、当時は空き缶が少なく、遊びとしてはあったものの一般的ではなく、時代が少し下ってからより一般化したようであった。

① 缶下駄

ア 採録した呼び方

- ・ 缶・乗ること ウマ、カン、カンウマ、カンノリ、カンマ
 - ・ 缶と木靴 カンコッポリ、カンノコッポリ
 - ・ 木靴・音 カチカチ、カチカッパ、カッパカッパ、カッポアソビ、カッポカッポ、カッポリ、カパカパ、コッポ、コッポリ、コポコポ、パカパカ、ポカポカ、ポコポコ、ポックリ、ポッコリ
- ※竹を使う場合は「タケノリ」



イ 遊びの話

全集落

ウ 遊びと呼び方の状況

2つの空き缶にそれぞれ2つの穴をあけ、そこに紐を通した遊具であり、缶に両足を載せて両手で足の動きに合わせて缶を引きながら歩くという屋外での遊びである。

本遊びの呼び方としては、「カンノリ」や「コッポリ」をはじめ計22種を採録した。

郡内のほぼ全域で舞妓の履く木靴と同様に「コッポリ」等と広く呼ばれたほか、缶に載ることから「ウマ」や「カンマ」、また乗った時に発する音から「カッポカッポ」、「ポカポカ」等多様な呼び方がみられた。

単に乗って遊ぶだけでなく、乗りながら様々な遊びもしたようである。

また、孟宗竹で作る場合もみられ、四日市市水沢野田町で「タケノリ」を採録した。

② 缶蹴り

ア 採録した呼び方

- ・ 一般的な共通名（缶を蹴ること） カンケリ

イ 遊びの話

全集落

ウ 遊びと呼び方の状況

空き缶を利用し、それを蹴ることによる屋外での遊びである。

本遊びの呼び方としては、「カンケリ」の1種を採録した。

当時、郡内全域で「カンケリ」と呼ばれ、他の呼び方はみられなかった。

蹴りやすい形状と重さ、また蹴った時に発する音からも、子ども達にとり取りかかりやすい遊びであったようで、遠くに蹴り飛ばすことを競ったり、かくれんぼの一種でオニの起点（オニが缶を守りながら隠れた子を探す）とした場合とがみられた。



11) 胴馬（どうま）

ア 採録した呼び方

- ・ 馬乗り様であること ウマノリ
- ・ 人が馬様になること ジンバ、ジンマ
- ・ 一般的な共通名 ドーマ、ドンマ
- ・ その他 シリトビ、ウマカケ

イ 遊びの話

全集落

ウ 遊びと呼び方の状況

二組に分かれて行うもので、一方の組の一人が壁を背にして立ち、残りの子ども達は前にいる仲間の脚の間に首を差し込み人のつながり（胴）を作り、そこにもう片方の組の子ども達がそれを潰すように後部から胴の上に跳び乗っていく屋外での遊びである。

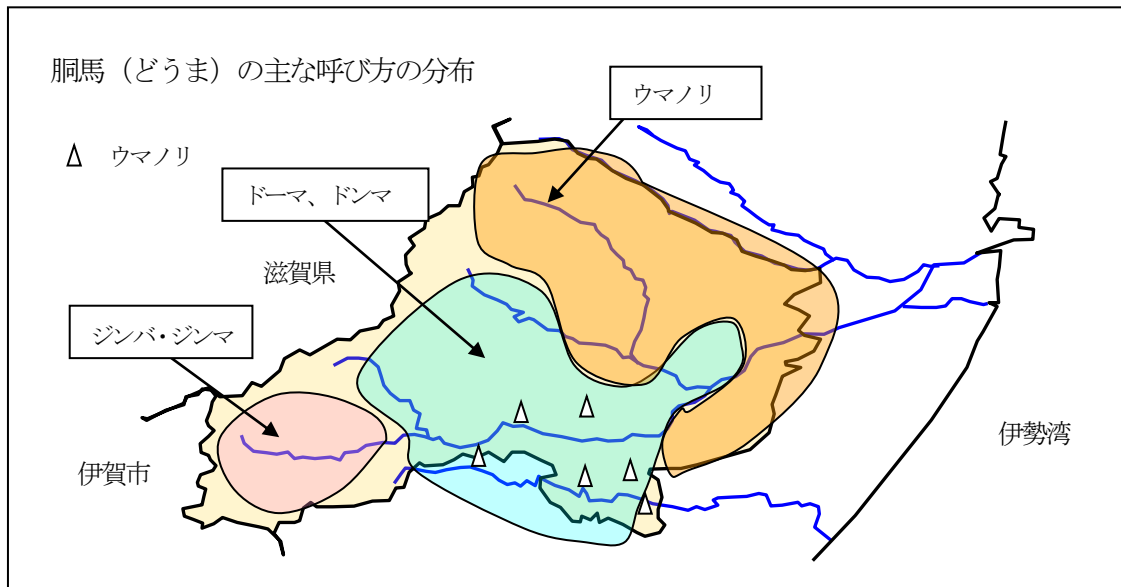
本遊びの呼び方としては、「ウマノリ」や「ドンマ」をはじめ計7種を採録した。

郡内は大きく3つの呼び方の地域に分かれ、郡北部から東部にかけての広い地域で「ウマノリ」と呼ばれたほか、郡中部の広域で「ドーマ」又は「ドンマ」、郡西部の加太地域では「ジンバ」又は「ジンマ」がみられた。

なお、「ウマノリ」は「ドーマ」、「ドンマ」と呼ばれた地域でも一部にみられた。

エ その他

本遊びを「ウマノリ」と呼んだ椿地区では、騎馬戦のことを「ドーマ」、「ドンマ」と呼んだという。

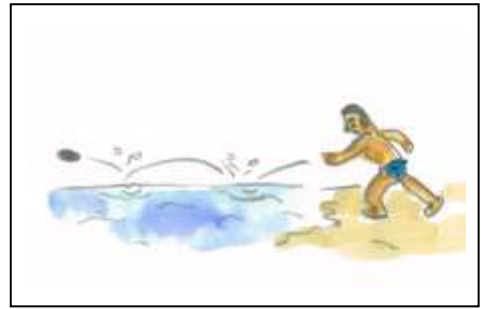


12) 水辺での遊び

① 水切り

ア 採録した呼び方

- ・ 投げる石 イシトバシ、イシナガシ、イシナゲ、イシヤリ、トビイシ
- ・ 水へ少し潜ること イシスカシ、スカシ、ミズスカシ
- ・ 川原での遊び カワラアソビ
- ・ 一般的な共通名 ミズキリ
- ・ その他 ケンチン、スイスイ、テンカイ、テンテンチー、ミズクミ、ミズトバシ、ミズトビ



イ 遊びの話

全集落

ウ 遊びと呼び方の状況

穏やかな水面となっている大川などに向かって石を投げ、それが水面上で飛び跳ねる回数を競う屋外での遊びである。

本遊びの呼び方としては、「スカシ」や「トビイシ」をはじめ計17種を採録した。

郡内は大きく分けて4つの呼び方が使われ、郡内の中部から東部にかけての広い地域で「スカシ」、加太地区では「イシナガシ」、椿地区から庄内地区「ミズクミ」と呼ばれたほか、石が水上を跳ぶことを指す一般的な呼び方でもある「トビイシ」は関町地区で主たる言葉として使われたほか、多くの集落でもみられ、各地域で2種の呼び方をされたようである。

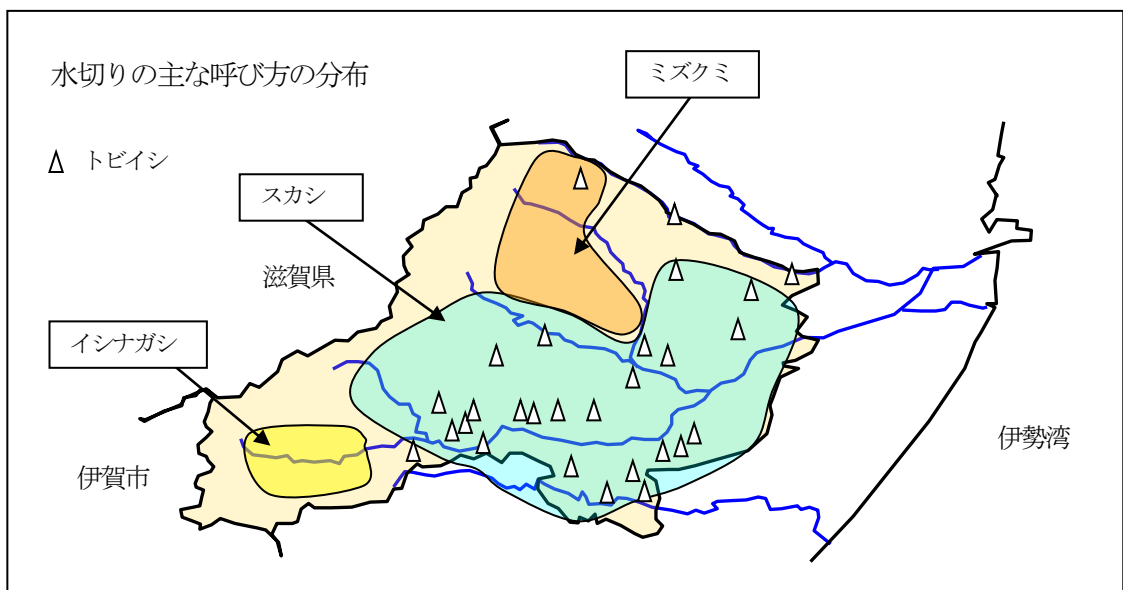
その他、「イシヤリ」や「ケンチン」、「テンカイ」、「ミズトバシ」等が一部の集落でみられた。

なお、隣接地域として調査を行った津市高野尾町では「ミズスベリ」、甲賀市土山町山女原では「ナンチョー」を採録した。

本遊びは水辺へ来ると特に意識せず行われたようであり、はっきりとした呼び方はみられず、上記の採録した呼び方も大部分の集落で積極的に使われたという呼び方ではなかった。

エ その他

多様な形状や大きさの石が数多くある川原で多く行われ、使用する石としては、平らで円形に近いものが好まれ、力任せではなく適度な力で回転させながら水面に平行に投げると、多く飛び跳ねるといふ。



② 川へ入り（潜り）遊ぶこと

ア 採録した呼び方

- ・ 水に入る スイリ、スッコミ
- ・ 水に潜る ミズクグリ、ミズモグリ、モグリ

イ 遊びの話

全集落

ウ 遊びと呼び方の状況

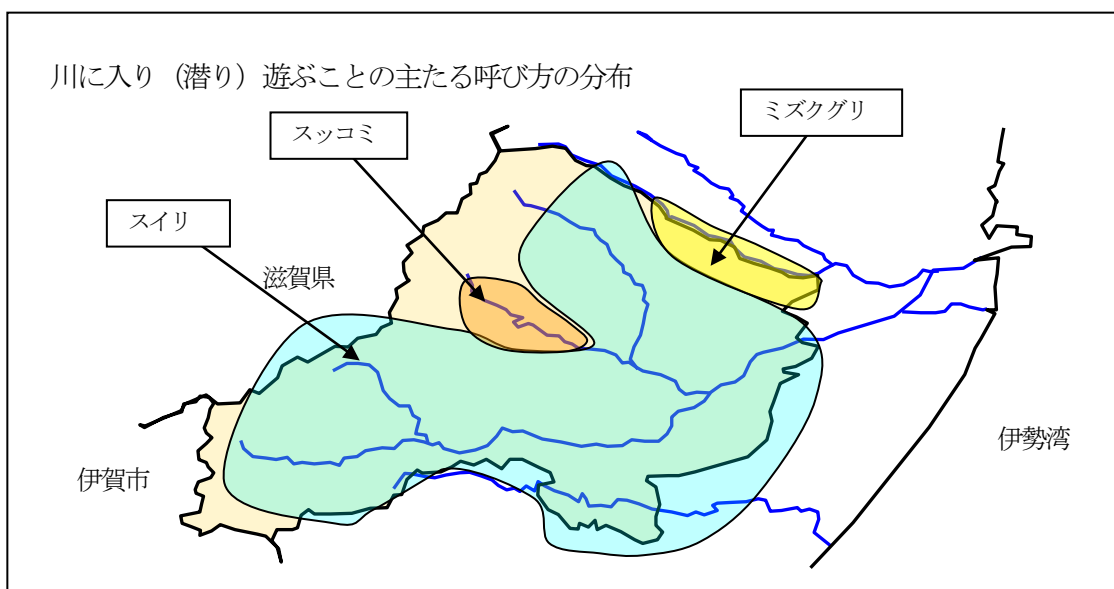
川や池で水中に入って遊んだり、潜ったりする夏の屋外での遊びである。

本遊びの呼び方としては、「スイリ」や「スッコミ」をはじめ計5種を採録した。

郡内では大きく3つの呼び方の地域に分かれ、郡内の広い地域で「スイリ」と呼ばれたほか、野登地区で「スッコミ」、久間田地区で「ミズクグリ」がみられた。

また、水中に潜ることは広く「モグリ」と呼ばれた。

なお、隣接地域として調査を行った明地区の一部では「スリンコ」、柘植地区では「スッポン」を採録した。



※ 水中の深みに沈めた石等を取りに行く遊び

ア 採録した呼び方

- ・ イシヒロイ、レンガヒロイ

イ 遊びと呼び方の状況

川や池の水の中に潜っての遊びの一種として、当時の子ども達が、川の淵などの深みで川底に落とした石などを潜って取りに行く遊びがみられた。

本遊びの呼び方としては、「イシヒロイ」と「レンガヒロイ」の計2種を採録した。

深みのある川が近くにある鈴鹿川本支流沿いの集落でそうした遊びが行われ、集落数としては少ないものの「イシヒロイ」と呼ばれた。

また、川底での識別のしやすさからレンガを落とす場合もあったようで、一部の集落で「レンガヒロイ」もみられた。